

## 2025 年度 YOKOHAMA-SXIP 派遣プログラム参加学生の声

氏名	T・K		
所属	横浜国立大学 理工学府	学年	修士 2 年
派遣先大学	The University of Newcastle		
期間	2025/10/5～2025/10/17		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと
今回の派遣は、ラボ活動を中心としたものでした。現地到着後は、ID 登録と研究室の安全講習を受け、実験器具や分析機器の具体的な取り扱いについて説明を受けました。研究テーマは「廃木材チップ由来の多孔性バイオカーボンを用いた吸着材およびスーパーキャパシタの開発」に関するものです。
UONへの派遣は今回が2度目であり、前回（学部3年次）は、化学の専門知識を英語で学ぶことに苦戦しました。その後2年間の研究経験を積んだことで、今回は日頃から使用しているX線回折装置や走査型電子顕微鏡などの操作をスムーズに行うことができました。継続的な研究活動を通して、専門的な知識と技術が身についていることを実感しました。また、異なる環境下においても、化学という専門分野の知識が共通言語として機能することを肌で感じました。これにより、国際的なコミュニケーションにおいて、語学力だけでなく専門性も鍵となることを理解しました。
派遣先の国の生活面、文化や社会的なことで、学んだこと
生活面では、日本よりもかなり高い物価に戸惑いましたが、現地の学生とのワイナリー観光（Hunter Valley）やOakvale Wildlife Parkへの遠出を通じて、異文化交流を深めることができました。また、自分の希望や意見をしっかりと主張することの大切さについても肌で感じました。
さらに、寮生活においても、今まで以上に多国籍な人々と日常的にコミュニケーションをとることができたため、自分の語学力や多様な文化・価値観に対する理解を大きく深めることができました。
来年度プログラム参加を考えている学生へ
このプログラムは、海外での専門的な研究活動の難しさと、他国の人々と協働して成果を挙げる達成感を経験できる貴重な機会です。
参加を検討している皆さんは、まず「現地で達成したい明確な目標」を持つことが大切だと思います。個人的なアドバイスとして、「積極的に人に話しかけ、行動する姿勢」が大切であり、完璧な英語で話すことにこだわらず、「単語とジェスチャーさえあれば通じる」と自信を持ち、コミュニケーションを取ることが大切です。
また、生活面では、滞在先の寮には最低限の備品しかないということを念頭に置き、日用品などは日本から持参、または到着後すぐに購入できるよう準備しておくと、スムーズに活動を始められると思います。
ぜひ、この貴重な経験を掴み、国際的な研究者としての第一歩を踏み出してください。

